

## NIMRA この10年を振り返って

2006年11月12日

谷 信

NIMRAに入会したのは、今から丁度10年前、20周年の年でした。この歴史ある会の3分の1に携っているとは、なかなか実感が湧かないのですが、私の知っているNIMRAのこの10年を振り返ってみたいと思います。

### 出会い

NIMRA と出会ったきっかけは、全くひよんなことで、Nifty Serve の MSX パソコンのフォーラムで通信モデムを欲しいという方が居て、私が使わなくなった1200bpsのモデムをお譲りすることになったところ、その方が建築家の阿竹克人さんで、「今度例会があるから良ければそこで」という話になったのが始まりでした。1996年2月例会でした。職場の同僚も誘ったのですが、胡散臭そうに断られ、半信半疑、単身で参加。東邦ガスの陸浦良一さんによる地域冷暖房についての講演でした。同僚が燃料電池関連の仕事をしていたこともあり、講演そのものは大変興味深いものでしたが、あまり質疑応答をすることもなく、そそくさと移動し、その先の2000年会（2次会）でもさっぱり例会テーマの議論がなされないので、「なんだか良く判らない会だな」という印象で帰りました。翌月、いきなりニュースレターが届いて、ビックリ。その後は出席したりしなかったりしていましたが、1996年7月の20周年記念公開講座（真行寺君江さん「私の月庵・・・」）に顔を出したところ、受け付けをしていた矢作建設の石橋歴さんに年会費を請求され、観念して入会しました。

### 1996～1997年

入会した2年間は、IC-Nagoya の丸山茂樹さんの会長2～3年目で、例会会場には、東邦ガスの増田信之さんのお世話により、栄ガスビルの会議室が使われていました。当時は、名簿会員数が60名近くに昇り、毎月の例会の参加者も20名以上、また、公開講座も2年連続で開催されるなど、大変盛況な時期でした。高齢者部会、マルチメディア部会などのグループ活動も開かれ、高齢者部会の方は、年末の情報交換市で提案書が報告されるなど活発な活動をされていました。ただし、私が参加したマルチメディア部会の方は、単にパソコン通信を使いこなそうというだけで、Nifty Serve にホームパーティーを設けるのが精一杯で、本来的なマルチメディア（文字・画像・音声などの異種類の情報が渾然一体となった通信媒体）の研究にはほど遠いものでした。

会全体の印象として、サロンの性格が強く、賑やかではありましたが、突っ込んだ議論ができないもどかしさを感じていました。

#### 1998～2000年

愛知県企業庁の舩木堅太郎さんが会長を務められました。通年のテーマを設け、毎月の例会をきっちり総括していこうという舩木会長の方針に従って例会運営が進められました。例会と幹事会が毎月開かれてハードでしたが、中身の濃い活動のできた期間でした。折りしも、1997年に地球温暖化防止京都会議 COP3 が開かれて地球環境問題に関心が高まる中、例会テーマにも環境問題に関連したものが多く取り上げられました。個人的にも地球温暖化に神経質になっていた時期でしたので、NIMRA の例会は非常に有意義なものでした。また、幹事会で環境マネジメント研究所の向井征二さんの事務所にお邪魔する中で、NGO 環境市民やネットワーク地球村などの環境団体に接する機会も出来ました。この頃からインターネットのメール利用者が多くなったので、ホームパーティーの代りにインターネットのメーリングリストを立ち上げました。メール利用が増えるにつれて情報交換も活発になり、中身の濃い活動が出来た反面、毎月の総括にこだわるあまり例会運営が大変になり、緑蔭講座や公開講座は開催できず、サロンの性格は薄れて、会員数は徐々に減少していきました。例会会場は、毎日ビルや中小企業センターの会議室など名駅周辺を多く利用するようになりました。

#### 2001～2002年

中部電力の川村信之さんが会長を務められました。世の中が世知辛くなった為か幹事の皆さんも多忙になり、運営の負担を少なくして会を維持しようという川村会長の方針に基づいて、年初に通年の例会と幹事会の日程と担当をすべて決めてしまい、非常に計画的に運営されました。例会会場も、引き続き IC-Nagoya の丸山さんのお世話で毎日ビル会議室や大名古屋ビルの教室を安定して利用できたので、会場確保の苦労も無くなりました。幹事会を3ヶ月に1回ずつにまとめた為、顔を合わせる機会が減ったのが残念でしたが、新メンバーの参加もあり、メーリングリストでは活発に情報交換が行われました。また、非公開ながら NIMRA のホームページを開設し、例会報告を中心に掲載を始めました。

#### 2003年～

建築家の阿竹さんが会長を務められています。基本的な運営形態は従来と変わらないのですが、連絡手段が電子メール中心となり、幹事会があまり開催されなくなったのが残念に思っています。そんな中でも、緑蔭講座が復活し、30周年記念講演会や懸案

の機関誌が発行できるなど、NIMRA の底力を感じています。例会会場は、矢作建設の鈴木さんのお世話により千種の矢作葵ビルが定例となり、2 次会も 2000 円定額を廃止にしました。インターネットでは、独自ドメイン [www.nimra.jp](http://www.nimra.jp) を取得し、ホームページを公開しました。

## 印象に残る例会

1996 年 10 月例会：田中 博 氏「シマフクロウの生態を撮り続けて」

野生動物は衣類こそ必要としないが、人間同様、食と住は必要であり、餌場と寝場所の確保には非常に広い森が必要で、それを道路で分断するとそれだけで生存できなくなってしまう。人間の日常感覚で測ったのでは駄目だということを学びました。

1998 年 3 月例会：北野 康 氏「地球環境問題、特に地球温暖化問題の国際的動向」

地球温暖化をなんとかしなければとカリカリしていた私は、「産業革命以後 100 年のツケを払うのだから、これから 100 年継続できるような無理のない対策を選ぶのが大事だ」との北野先生の言葉で、肩の力が抜けて、とても救われた思いがしました。実際には 2006 年現在も二酸化炭素排出量は増加の一途を辿っており、一向に救われないのが現実ですが。

1998 年 12 月例会：増田 信之 氏「名駅南地域冷暖房プラント見学会」

コジェネレーションは非常にエネルギー効率が高いが、コジェネ運転できるのは冷房と暖房が所定の比率にある場合であり、実際には、夏は冷房、冬は暖房が主体となるので、コジェネ運転できる時間割合が小さい。エネルギー効率の話をする際には、実際の冷熱需要と照らし合わせて考えることが大切であることを学びました。

1999 年 5 月例会：向井 征二 氏「自治体の環境 ISO の現状と課題」

「ISO を取得すること自体よりも、ISO を取得するに相応しい企業・自治体になることが大切だ」(肩書きよりも中身が大事) というお話が、非常に印象的でした。

1999 年 7 月例会：由利 信太郎 氏「都市の静脈下水」

下水道の方式に、雨水を一緒に流すか流さないか、分流式と合流式の 2 種類があり、特に大都市の下水道は合流式が主流で、河川や地下水の流れを変えてしまっていることを知ったのは、小さな驚きでした。また、ゴミは分別してリサイクルするのが当た

り前の昨今にあつて、下水道は生活廃水と工場廃水をまとめて処理している為に、汚泥から生成したコンポストを農業肥料にリサイクルできない問題点を抱えていることも知りました。

1999年11月例会：畠山 順嘉 氏、朝倉 義子 氏「グループホームと宅老所」

朝倉さんの宅老所の講演の中で、お年寄りその人がもっとも生き生きしていた時代の生活スタイル（家屋、家具、道具 etc.）の中に置いてあげると、ボケることなく生活できる、というお話が、とても印象的でした。便利さだけではない、人間的な生活とは何ぞやという本質を突いているように思いました。

2005年2月例会：丸山 茂樹 氏「少子高齢化と日本の外国人受入れ政策について」

2006年2月例会：丸山 茂樹 氏「一外国人労働者問題と小さな政府一」

外国人の受入れを政府が具体的に検討を進めていることなど、実際には目にしていながらあまり語られない日本の行く先を問う例会でした。外国人子女の就学問題や治安維持問題、健康保険や税金問題は、市町村合併や地方分権のあり方とも絡む問題のように思いました。

最後に

NIMRA とは何ぞや？ 対外的には「都市問題を多角的に眺めることを通して、将来あるべき都市の姿を模索する会」と紹介していますが、結局は未だに「よく判らない会」。ただ、少なくとも私にとっては、こんな小人数で聞くのはもったいない話が聞ける会であり、また、議論好きな希少なメンバーと会える場所であることは確かです。

(終わり)